トイレ掃除が学校を変え街を変えた

山口富久広島東区長講述録

平成17年1月29日(土)
岩国市福祉会館

岩国掃除に学ぶ会
(再編集 ： ヨガナンダ　http://yogananda.cc)

トイレ掃除が学校を変え街を変えた

■ 話の枕に ～緊張を解きましょう～

皆さん、本日はこういう機会を与えていただいて誠にありがとうございます。
今から1時間半にわたってお話しいたします。
少なくとも講演を聴きに来られた皆さんに「ああ、よい講演だったな」と思っていただけるようお話したいと思います。

今日は「自分がいかに素晴らしいか」ということをきちっと認識してもらえるようなお話をいたします。人は素晴らしい能力を持っているということです。
次に「人は何のために働くのか、何のために勉強するのか、何のために生きているのか」、このことをきちんと分かってもらって、その後にトイレ掃除の話をします。

少し皆さん、緊張しておられます。私も話す前から緊張しています。
私は年に百回以上もこうして挨拶するものですから、(壇上で話す時にも)全然あがりません。
しかし時には失敗もします。どういう時にあがるかといいますと、美しい人と魅力的な人が多い時にあがります。今日はものすごく上がっています(笑い)。 緊張しています。
その緊張をまずほぐします。
今年はトリ年なので、トリのように羽ばたいていきたい。そのために緊張をほぐします。
トリの中の最高のトリとは、金のトリです。
これは蚊取り線香の「金鳥」ですが(と「金鳥」の商標ラベルを取り出して) 、これをこうほぐして(ラベルを手の中でクシャクシャにする)、リラックスして(シワを伸ばして聴衆に見せる)、今年も羽ばたいていきたいものです(笑いと拍手)。
今日も楽しんで帰ってください。

さて広島掃除に学ぶ会には、(今日もメンバーが来ておられますが)体重百キロ以上もある井辻快調(会長のこと)がおられます。この会場にはダイエットが必要な人はおられませんが、井辻さんはいろんなダイエットに取り組まれました。
そのいずれにも全部失敗して、最後は「乗馬ダイエット」というのに出合った。
馬に乗るんです。3ヶ月で大体10キロ落ちるそうです。
井辻さんがやられて1週間で10キロ落ちました。馬の体重の方です(爆笑)。
緊張がほぐれたと思いますので本題に入ります

■ いかに自分が素晴らしいか

さて、最初に「いかに自分が素晴らしいか」ということを証明します。

5分後には、皆さんに胸を張って自信を持ってもらいます。

まず皆さん、自分がどれくらい価値があるかお金に換算してみてください。
遠慮しないで精々ふっかけて決めてください。
1千億円以上の人は手を挙げてみてください。おや、岩国市の人は皆さん謙虚ですね。
それでは1日1億円としましょう。年に300億円。百年生きるとして、3兆円の価値があるとします。そこで1日1億円を使わなくてはいけないとします。
想像してみてください。貯金してはいけませんよ。とにかく使わないといけません。
例えばフランス料理を食べたい。
ジャンボジェット1機をチャーターしてフランスへ行き、百万円のフランス料理を食べて、1泊1千万円のホテルに泊まってという生活が毎日です。
世界中の自分の好みの異性が自分に惚れてくれるとします。
十人がいつも自分の周りにいてお世話してくれます。
それが毎日続きます。そういう自分と今の自分とどちらがいいですか。
ただし1日1億円使えて、十人の異性が惚れてくれている自分には両手両足がなしです。
いらないですね。口に出したら全部やっていただけるのですから。
両目もなし。それと今の自分とどちらがいいでしょうか。
今の自分がいかに恵まれているか分かるでしょう。

手と足が動いて、目が見えるのが9,900点とします。
その上に頭がいいとか悪いとか、金があるとかないとか、顔がいいとか悪いとかがあります。
そちらに恵まれない人は20点、全部恵まれている人が90点としますと、9,920点と9,900点です。
人はここの差だけをダーッと拡大して劣等感というものを持ちます。
劣等感を持ったら何がいいかというと、努力しなくてもいい。
劣等感を持って努力から逃げています。

ただ誤解の無いように言っておきますが、障害者で、場合によっては7,000点位の人もおられますが、それらの人は一万点以上の働きをしておられます。
障害のある人が何故この世の中におられるかといいますと、障害者はあの世からこの世に来る時に、この世の中で思いやりや優しさを引き出す大役を持って来られています。
しかも自分で選んでです。この世の中に障害者の方、歳を取って障害者になられる方が、まったくいなかったらどんな世の中になるか想像してもらったら分かるように、ギスギスした冷たい世界になります。
だから障害者の人はすごく重要な役割、すなわちこの世の中を温かくする役割を持っておられます。誤解が無いようにしてもらいたい。
皆さんがいかに素晴らしい能力を持っているかということを言うために、こんな話をさせていただきました。

■ 限界を作ることは

もう少しあなたの劣等感をなくしたいと思います。
自分に「限界を作ってくれるな」ということです。
サーカスの象がいます。あれが1メートルくらいの杭にチェーンで繋がれたら逃げないですね。
それは何故かというと、子象の時に大木にチェーンで繋がれて逃げられなかったからです。
だから自分はチェーンに繋がれたらもう逃げられないと勝手に思い込んでいます。
つまりそれは自ら限界を作って「自分は出来ない」というようにしているんです。

私たちもそうです。小学校に行く前、もともと体力がなかったわけですから、何かやってみたらうまくいかなかった、出来ないと思った。
何かやろうと思っても、親から「危ないからそんなことをやってはいけない」と言われて出来なかった。
ようするに、出来ない、出来ない、出来ないと逃げてきていただけなのです。
象も素晴しい能力があるのに限界を作って逃げています。
限界を勝手に作っておいて自分は努力しないでも良いという理由づけをしています。
人は誰でも個々人で素晴しい能力を持っています。
もしそれを殺ぐような限界を作ってるのであれば、それを是非外してもらいたいのです。

■ 人間社会にも限界なし

人間社会においても素晴しい能力を持っていることをこれから証明します。
アニメで「ドラえもん」というのがあり、「どこでもドア」、「タケコプター」とかいろんなドラえもんグッズを持っています。
あれが百年後に世の中で全部実現出来ると思っている人いますか。
答えは百年後には全て１００％できます。それをこれから証明します。

４百年前に徳川家康がいました。日本で一番金持ちで、一番の権力者だった。
その頃に藤子不二衛門という漫画家がいたとしたら、今の私たちの生活、例えば携帯電話、自動車、ジャンボジェット、テレビが漫画になっていたとしても、当時の人は見もしないし、誰も相手にしない。もちろん漫画にもならなかったですね。
４百年前に漫画にもならなかったものが、今では１００％できているわけです。
想像もしなかったものが出来ています。

４百年と言いましたが、今度は百年前の明治の終わりごろに、今の世の中が漫画になっていたでしょうか。
わずかに漫画になっていたものもありますが、ほとんどが漫画にもならなかったですね。
想像もしなかった。だから今、人間が想像することは１００％出来るし、想像していないことも百年先には起きてきます。
個人も限界をはずしてもらいたい。世の中、社会全部にも限界をはずしてもらいたい。

皆さんは素晴しい能力を持っています。

もうひとつ、劣等感をなくすために話をします。
トイレの神様からのプレゼントです。ひとつだけ神様が直してくれます。
自分が一番嫌なところでもよいし、嫌な出来事でも良いですが、これだけはとにかく直してもらいたい、ということをちょっと頭にイメージしてください。
神様からの解答は、「そら、そこがあなたの一番魅力的なところです」　・・・　これは真理です。
これで一番の劣等感がなくなりました。

■ 何のために働くのか

さあ、これで皆さん、自分に自信を持ってもらいました。
ではこの素晴しい能力を持ったあなたが「何のために働いているのですか」、「何のために勉強しているのですか」、あなた自身の解答をチョット頭の中に描いてみてください。

「何のために働くのか」、その解答を言います。まず1番は自分のために働くのです。
もう少し能力のある人は、2番「家族のため」。
さらにもう少し能力のある人は、3番「組織」、会社でもいいし役所でもいいです。
3番で終わるのだったら、この世の中にいない方がいいかもしれませんね。

大切な答えは4番目以降です。
「世のため人のため」、これが答えです。
これでは抽象的ですから、ここは岩国ですから、まず4番目は「岩国市民のため」、5番目は「山口県民」のため、6番目は「日本国民のため」。
これで終わっていたらエコノミックアニマル日本で、日本国も世界の中でいらない存在です。
もう少し広がって7番目「人類のため」。8番「地球のため」。
もうひとつあって、9番目「宇宙のため」があるかも分かりません。
それは分からないので言いません。それが働く目的です。

番号をつけたのは、これには優先順位がありますよ、ということが言いたいがためです。
1番は「自分のため」でいいです。もう少し能力を上げて、2番にし3番にして、うまくいっている時はなるべくその輪を大きくしておきます。
そして自分が病気になったら、パッと1番に戻ります。
そのような時は家族を放っておいても、世の中がどうなってもいいのです。
自分が病気なら病気を一生懸命治します。一ヶ月、三ヶ月かかってもいいです。
それで治ったらまた輪を大きくしていきます。
家族の誰か一人にトラブルが起きたら、パッと2番に戻ります。
その時の世の中がどうなろうが、それは放っておけばいいのです。

家族の問題を解決したら、また輪を大きくします。

また会社でトラブルが起きたら、皆でカバーし合います。
その時は世の中に迷惑をかけてもいいです。会社が立ち直ったらまた輪を大きくします。
一生かかって大きくしたり、あるいは小さくしたりしながら、一生が終わった時に、この輪が大きければいいだけです。それが働く目的です。

さきに言いましたように、素晴しい能力を1番とか2番とか3番とか「そんなケチ臭い所だけに使ってくれるな」という話です。
素晴しい能力を持ってこの世の中に来ているのですから、なるべく輪を大きくしてもらいたいですね。これが「働く目的」です。

■ 何のために勉強するのか

それでは、「何のために勉強するのか」といいますと、自分のために勉強するのではありません。
世の中に貢献できる人間になるために勉強します。
勉強しなかったら1番の能力しかありません。
もう少し勉強したら2番に行くし、3番に行くし、そして4番、5番、6番、7番、8番目に行きます。
そのために勉強します。

子供に「勉強せよ、勉強せよ」と言う時に、「あなたは金持ちになれるから勉強せよ」、「地位が上がるから勉強せよ」と言ったら勉強はしません。
クラーク博士は昔の札幌農学校(今の北海道大学)の教頭でしたが、この人が言った言葉に、
「少年よ、大志を抱け！」という言葉があります。
私もここまでは知っていても、その先を知りませんでした。実はこれにはあと二行ほどあります。
「大志とは地位とか名誉とか金を得ることではない。
　本当の大志とは、自分の好きなこと、得意なことを通して世の中に貢献することだ。
　そのために勉強しなさい」
と言われています。

私はまったく逆に考えていました。地位とか名誉とか金が大事だと思っていたからです。

■ 何のために生きているのか

これまで述べてきたことが、「何のために働くのか」、「何のために勉強するのか」ということですが、今度は「何のために生きているのか」という話です。これから全部お話します。
今日からは働くことも、勉強することも、生きることも全部が楽しくなります。
今日以降は全部楽しくなります。
これから先は一種の宗教ですからね。私の考えであって、皆さんは皆さんでそれを参考にして考えてください。まず何のために生きているのか。

ここに立っている私の肉体が見えます。人間は何からできているかというと、肉体と、それに好き

とか嫌いとか、嬉しいとか悲しいという心、感情のようなものがありますね。動物もここまではあります。
この二つだけでなく、もうひとつ、私は「魂」と言いたいのですが、「霊」でもいいです。
そうした言葉の嫌いな人は、理性とか本性とか良心とかです。
私はこれを修業するためにこの世の中で生きていると思っています。
もう少し簡単に言うと、人間性、人格を高めるためにこの世の中に存在し、百年間なら百年間を生きるということが答えです。

そうすると死んだらどうなるのかという話になるわけです。
私は来世は「ある」と思っています。前世もあって今世もあって、来世もある。
十年前があって、今年があって、また十年後があるように、来世もある。
それを「あるかないか」を示せと言われたら、私は示す方法を知りません。
知りませんが、来世があると思って今日を生きることと、来世がないと思って今日を生きることと、どちらが有意義に今日が生きられるかというと、それは「ある」と思う方です。
私は勝手に思い込んでいます。

それではどんな来世があるかという私の来世観をお話しします。
キリスト教でいうと羽根があってネグリジェのようなものを着ていて、天使というのがいますよね。
それがズラーっと並んでいて、という具合です。
仏教で言うと、天女の羽衣を着たスケスケの美人がズラーっと並んでいて、死んだらそこへドーンと行くと思っています。だから死も楽しみです。
これは私の来世観です。女性の方は、キムタクがズラーっと並び、ヨン様がズラーっと並んでいてもらえればいいですね。

私は輪廻転生があると思っています。私はこれまでにいろいろなお坊さんや牧師さんにお会いしました。宗教関係の本も二千冊くらい読みました。
というのは、四十二、三歳の時に一度自殺しようと思ったことがあるのです。
その時に死ぬことが出来なくて、生きていなければいけなくなったわけです。
だったらきちんと、何ために生きているかということを整理しない限りは生きておれないわけです。
ですから私は私なりにいろんな所に行って、私なりに研究し、五、六年かかってきちんと整理しました。それを皆さんに三分ぐらいでお話します。
それはもっと高いレベルに皆さんに行ってもらいたいからです。

私は輪廻転生、来世はあると勝手に思っています。
輪廻転生は同じ所をぐるぐる回るのではなくて、螺旋状に向上していきます。
一周が一生、百年間です。次には高いレベルに上がって生きていくということです。
だから「人生とは魂の修養ゲームである」と思っています。
「ゲーム」というのは、楽しみながら自分の人格、人間性を高めていくということです。

■ 人格･人間性を高めるために

それだったら、どうしたら人間性、人格が高まるのかと考えるわけです。
毎日を遊んでいても少しは高まりますが、一番いい方法は、試練･苦労がたくさんもらえれば自分が成長できるということです。
皆さんの過去を振り返ってください。中学生とか高校生時代を振り返ってもらうと、無事に過ぎた1年間と、泣いたり悩んだりした1年間と、どちらが人間的に成長していますか。
今考えると、どちらがほめてやるべき1年間であったかというと、試練･苦労があった時が一番成長しています。
それだったら、試練･苦労をたくさんもらって自分が成長すればいいわけですよね。

だがどうやったら試練･苦労がたくさんもらえるかなと思ったら、一番いい方法は仕事を通してもらうことです。
ボランティアでもいいし、他のものでもいいですが、一番いいのは仕事とかボランティアを通してです。
さきほど働く目的は、とお話しましたが、働くのは目的ではなく単なる「手段」です。
自分に苦労をもらうための、また自分を成長させるための手段です。
苦労･試練がどうやったらもらえるかというと、さきほどお話しした働く目的の輪が大きければ大きいほど、それに比例して試練･苦労がたくさんもらえます。
だから働きは、なるべく世のため人のためにと輪を大きくすることです。
そうすると試練･苦労がたくさんもらえて自分が成長できます。
「世のため、人のため」と言いましたが、最終的には全部自分に戻ってきます。

職場で人事異動がある時には、私の場合には皆さんには自分の好きなところに行ってもらいます。私は皆が嫌だと思うポストを希望します。
その職場に行きますと、そこで一番嫌な仕事は何かということを探します。
一番嫌なポストに行って、一番嫌な仕事をします。当然ながら試練･苦労は多いです。
それをクリアしたら自分が一番成長できます。そういうことをずっとやってきました。

仕事の試練･苦労というものは、自分を修行させてくれるものです。
甲子園を目指している高校球児が暑い日の夏休みに一日中走っていますね。これは監督から言われたわけではない。お金がもらえるわけではない。それは甲子園という夢があるからです。
それは修行という楽しみでやっています。仕事で嫌々やっているのではない。私たちもそうです。
試練･苦労をもらったら自分が成長できる。その成長が修行の楽しみです。

■世の中に苦しみはなく、楽しみのみ

この世の中は三つの楽しみでできています。
ひとつは自分がおいしいものを食べたり、どこかに遊びに行ったり、旅行したり、そういう楽しみです。これは大切なことですから皆さんも楽しんでください。

しかしこれはどちらかというと入門編ですね。
二番目の楽しみは何かというと、自分が人間的に、人格的に成長できる楽しみです。さきほど言った苦労・試練をもらい、それをクリアしていって成長する。そういう修行という楽しみです。
これが二番目の楽しみです。中級編です。
三番目、本当の楽しみは、自分が人のお世話をして、その人が幸せになっていることに気づくこと、これが最高の喜びです。お母さんが赤ちゃんの世話をしている、赤ちゃんがニコッと笑う、さあその時が最高の幸せですよね。お返しがもらえるわけではない、お礼の言葉がもらえるわけではない、これが世の中の一番の幸せであり、楽しみです。

この世の中には苦労・試練がなくて修行という楽しみしかありません。勉強も、自分のために勉強するのではありません。自分が実力をつけて世の中に貢献する。そのために勉強します。
自分のためだったら眠くなると眠ってしまいます。自分が金持ちになるのを諦めた、地位を諦めたと言って、努力することを止めてしまいます。
「違う、違う、あなたが社会に出て、社会に貢献するあなたを世の中の人々は待っているのだ」と言われたら、「よし、頑張ろうか」、「世の中のために頑張ろうか」という気になります。
仕事もそうです。仕事は自分のため、自分の家族のためだけではなくて、世の中に貢献するためにやるわけです。それだから楽しみになって、ひとつもつらいことはないです。そのように考えると、世の中のことは全部楽しいことばかりです。

■ 非行少年と関わって

そういう考えがベースにあってトイレ掃除に取り組んだわけです。
これからトイレ掃除に何故取り組んだかという話をします。

私は昔から少年院を出た子をお世話しています。趣味で何とはなしにそうなりました。
当初は、市の職員の息子が警察に逮捕されて、その子の面倒をみました。
その子の口コミで仲間に広がり、私のところに次々に来るようになりました。

少年院を出た子ども達の話を聞くと、小学校に行くくらいまでに両親が離婚している。
親のどちらかが男か女をつくり、子どもを捨てて逃げています。それで片親が育てます。
それは育てるのではなく餌を与える状況です。犬、猫なら時々は可愛いと言って餌を与えますが、犬、猫以下で可愛いと言いもせず育てます。つまりただ餌を与えるだけです。

そうして15歳ぐらいになった時に子供は次のようなことを考えます。
逃げた親に対しては、自分が5歳ぐらいの時に悪いことをしたから、それが原因で逃げたと思い、自分で勝手に自分を悪者にしています。今冷たく育てている親に対しては、愛情から厳しく育てているのだと勝手に思い込んでいます。そう思い込まないと生きていけないからです。

それで15歳位になって、そうしたことを整理して何を考えるかというと、親孝行したいと考えるようになります。そして最終的に行き着く結論は、この世から自分がいなくなることが親孝行であると

判断します。それで自殺を試みます。手首を切ったり、飛び降りたり、いろんなことをやります。
次に死ねないからオートバイを盗んだり、暴走したり無茶苦茶をやって、それで事故死しても自分の望むところなのです。
そういうことをやっていて、たまたま警察につかまって、それから少年院に行って、出てきて私に最初に言う言葉は「死にたい」という言葉です。これが子供の世界です。

■ 非行に走る子供の親の特徴は

それから親とも何十人と会っています。親から話を聞くと二つほど特徴があります。
まず「人の話を聞かない」、私の話を聞かないのはもちろんのこと、自分の子供の話を聞きません。直接非行に走った原因を「何故か」と聞くと、「親に話を聞いてもらえなかった」と言います。
小学生、中学生の時に「お父さん」とか「お母さん」と話しかけると、「うるさい！」と言われ、「そんなこと知っている」と言って、とにかく親が人の話を聞きません。

二つ目は、学校が悪い、社会が悪い、警察が悪い、役所が悪い、誰が悪い、彼が悪いといって、自分が悪いという言葉が出てきません。この二つが特徴です。

子供の世界と大人の世界を見たら、どちらがおかしいかというと、親が１００％悪いです。
三十代、四十、五十代です。なぜおかしいかと考えた時、(第二次大戦の)敗戦で民主主義が入ってきて自由と権利が言われ、地位と名誉と金が手に入れば幸せになれるという新しい価値観で生きてきました。この世代の親は、戦前の価値観を持った一世です。
だから今の十代、二十代は、そういう親に育てられた二世です。
十代、二十代がおかしいのではなくて、おかしい人間は三十、四十、五十代です。
彼等が非行に走ったり、家出したり、暴走族をやっていることは、「今のあなたたちの世代の価値観はおかしいよ」と口で表現できないから、非行という行動で表現しているのです。

そこで私は、世の中を何とかしていこうとしたら、三十、四十、五十代の人たちの価値観を良くしていかない限り、十代、二十代は立ち直れないと思っています。
親から相談を受ける時は、子供に一回も会わないでも親が変われば子供は立ち直ります。
子供から相談を受ける時には、立ち直りの一番の敵は親です。
だから、三十、四十、五十代の人たちの人間性を何とかしたいということで、私はこうして講演をして歩いてきましたが、なかなかそういう人は聞きに来てはくれません。

■ 女子高生Aのこと

これまで親子関係を抽象論で話しましたが、少し具体的な例をお話しします。
ここに高校一年生の女の子Aがいます。半年ぐらい家出をしていて、私の所に出入りしていました。
私の所へは先の少年院を出た子が紹介者です。
しかし１００％本当のことを言わない限り、私は更生の手伝いをしないというのが絶対原則です。

彼は少年院を出て働いていますが、まだやはり金曜日の夜なんかは夜遊びをして、街で女の子をひっかけて帰るわけです。
それが高校一年生の女の子だったので持て余して、「山口さん、面倒を見てあげてください」と電話がかかってきて、私のところに来るようになりました。

そうしてずっと私の所に出入りしていました。私は親に連絡はとりません。
しかしたまたま親がどこかで聞きつけてきて私の所に来て、「娘を助けたい」と言われました。
「それでしたら、それだけの覚悟がありますか。全財産を出して、全生命をかけて助ける気持ちがありますか」と聞くと、「あります」という返事でした。
「よし分かった。お手伝いしましょう。本当のことを言ってあげましょう」と返事をしました。
「お父さん、娘さんが何故家出したか、なぜ三度も警察に補導され、そういう非行をしているか言ってごらんなさい」と聞きました。
「自分は会社のエリートであり、娘は出来が悪かったから、劣等感から家を出ている」と。
「お母さん、なぜそうなったか言ってごらんなさい」と質問しました。
「四人兄弟の末っ子で、甘やかしたからそうなった」と言われました。

「では、本当のことを言ってあげましょう。娘さんはすべて知っています。お父さんには十六年前から愛人が一人いるでしょう。三年前から二人目もできたでしょう。それと手を切ってきなさい」と私は言いました。
また、「お母さん、五年前から男がいるでしょう。それと手を切ってきなさい」と。
「では今から帰って夫婦で話をして、この夫婦でもう一度やり直す気があるならここにおいでなさい」と言いました。すると次の日にもう一度来られて、「夫婦でやり直します」と言われたから、本人にありのままを伝えました。今では本人も立ち直って元気に働いています。

つまりこのように、両親は完全に誤解しています。家族三人で、つまりお父さんとお母さんとそして自分とで夕食を食べることなど「あほらしくてやっていられない」とその子は言います。
各々に男と女がいるわけですからね。自分がこの二人の親から生まれたことは事実であっても、一家団欒で三人一緒に夕食など食べてはおられないと言います。
だから家出などをして、あなた達はおかしいとメッセージを発していました。

■ 女子中学生Bのこと

もう一人の中学一年生の女の子Bなどはまだひどいですが、実は兄貴に家の中でいたずらされています。お父さんも知っているし、おじいさん、おばあさんも知っていますが、何も注意しない。お母さんは男を作って逃げています。それでその家族では話は無理ですから、お母さんを呼び出しました。愛人と一緒に私の所に来ました。本人も来ました。そして四人で話をしました。
「お母さん、悪いですが、今は中学一年生だから、あと二年ほど育ててあげてください。中学を卒業したら本人は働くと言っているから」と頼みました。

お母さんは本人を目の前にして、「いやです。この子は捨てました」と言いました。

その足ですぐ母親の両親(祖父母)に会いに私は行きました。
その人たちも「孫の女の子の面倒を見ない」と言われました。そうなるとその中学一年の娘は、両親から捨てられ、兄弟からも捨てられ、両方のおじいさん、おばあさんからも捨てられてしまった。もうこの世で怖いものなどないですよね。期待もされていないしね。
その子の心はずたずたです。

私がいろんなケースを当たったら、みんな全部、１００％親が悪いです。
ではその子供たちがそのことを学校で話すか、警察で話すかというと、絶対に話しません。
恥ずかしいから話しません。学校へ行っても、警察へ行っても、「私が悪い、どうにでもしてくれ」と言って、全部自分が悪いと言って通します。
その子供たちに対して、親が、学校が、警察が、あるいは社会がどう対応しても立ち直らないですよ。
子供は全部本来はいい子です。大人の世界がおかしい。
だから大人の世界を何とかしたいというのが私の考えです。

■ トイレ掃除参加のきっかけは

もともと私はトイレ掃除に興味がなくて、7年くらい前から「行こう、行こう」と誘われていたのを、「いや、いい、私は人間性や人格が出来ているので、トイレ掃除などしなくてもよい」(笑い)と断り続けていました。
今は少年院を出た子供の面倒を見、それに就職の世話もしていますが、トイレ掃除に行くことを条件にしています。

もう少し詳しく話しますと、１７歳位で少年院を出てきた子は、私のところに来た時は、二百万円位の借金を持っています。そのバックにヤーさん(ヤクザ)がついています。
未成年者は本来なら借金できないのですが、何だかんだといって、自動車販売会社に車のローンを組ませたことにして、利率２９.２％で年間６０万円ほど利息だけを追わなくてはいけないようにされています。
ですから毎月5万円をバックについているヤーさんに取られている。そういうヤーさんは一人で何十人もそんな子を持っている。
そのヤーさんに対して私は、「借金を踏み倒しますから」と連絡します。20歳未満は自分ひとりでは借金できないので、違法のため払う必要はありません。それで警察と連絡を取ったり、弁護士と連絡を取ったりしながら関係を切るわけです。
向こうは商売の邪魔をされるわけですから、私の所に夜中でもどんどん電話をかけてきます。
夜中に私に「出てこい」と言うから、「私は私の身分を隠してやっているのではない。東区役所の三階にきたら私はちゃんとおります。文句があったら来なさい」と言っていますが、一回も来たことはありません。もちろん来たら逮捕されるから心配しなくてもいいのです。

ヤクザとの関係を切って、そしてトイレ掃除に行かせて、それで就職を世話します。
というのは、「価値観」が全然違いますからね。そのままパッと就職したって、もう相手の会社に

迷惑をかけるだけです。
トイレ掃除を一回やるとガラッと変わります。それを私は体験で知っていましたからね。
これまでも、私が体験する前に既に３０人も４０人もトイレ掃除に行かせていました。
そんな状況の中で一人に、「トイレ掃除に行ってこい、そうしたら就職を世話する」と言ったら、「おお、オッサンよ、お前が行くならワシも行ってやる」と言い返してきたので、「よし、分かった」と言って、(トイレ掃除に)出かけました。(笑い)それが私の第一回目です。

■ 安西高校でのトイレ掃除

そんなわけでトイレ掃除に行くようになりました。
それが安西高校でのトイレ掃除の第一回目です。
安西高校は、その時に全国一退学率の高い広島の県立高校で、年間１５０人ぐらいが退学していました。

復活！安西高校、7年ぶりの体育祭

その時に私と同じ掃除の班に突っ張った特に目立つひどい女の子がいました。
その子は自己紹介する時にものを言いません。
「はじめます」と言っても5分ぐらい掃除に取りかかりもしませんでした。
それで私は「ほっとけ」と言って、「皆でやろう」と言ってやっていた。
そうすると5分遅れぐらいで入ってやりだしました。
そして今度は「あと5分で掃除をやめるよ」と言ったら、「いやもう少し待ってください」と言って、１２月だったのですが、床を這いずり回って、トレーナーをびしょびしょにしてやっていました。
終わってから皆でむすびと味噌汁を食べました。
そこにはセロファンとか紙コップがある、もちろん各自が自分で捨てに行こうと思っています。
それをその子がサッと立って、自分で拾い集めて捨てに行きました。
そして会が終わった時には皆に対して「ありがとうございました！」と言って。一人一人にキチッと頭を下げていました。
そして結局突っ張ったところがまったくなくなり、素直な女の子になっていました。

たった2時間で何故こんなに変わるのか。
その時はそのことがすごく印象に残りました。
それ以降、私は安西高校には行かなかったのですが、2回目、3回目のトイレ掃除を実施され、その成果として、7年ぶりに運動会ができました。
安西高校では、トイレ掃除を三回連続してやることで、素晴らしい成果を出されたのです。

■ 暴走族対策としてのトイレ掃除

私にはお巡りさんの飲み友達がたくさんいて、その人たちがみな一生懸命です。
トイレ掃除そのものについては、広島ではもともと県警が最初に一生懸命やりだしました。
その県警の飲み友達の竹内さんが、掃除道具としてのホウキがない、刷毛がない、ペンキがないというので、私はもともと役所の土木出身ですからその調達をしては、手に入れて持っていったりしていました。
当時県警はトイレ掃除以外にも、落書きのペンキを消したり、ガム剥がしをやったり、いろんな取り組みを暴走族対策ということでやられていました。
現役の暴走族を連れてきてはやられていました。
しかしどれもあまり効果が出なかったです。もちろん効果ゼロということはありません。
しかし劇的に良くなった取り組みはトイレ掃除です。

掃除に学ぶ会も、最初は公園のトイレ掃除をやっていました。
その当時は、学校のトイレ掃除を申し込んでも一切貸してくれなかったのです。
宗教活動だ、とか言いましてね。
それで私に頼んできて、「どこか場所を探してきてくれ」、「どこかの中学校をトイレ掃除に貸してくれ」と言いますから、それではと私も頼んでみたのですが全部断られていました。

広島県警は、 トイレ掃除がすごく効果があるということをよく知っていました。
それで吉田町と吉田署が、やはり学校を中心にしてトイレ掃除をやっていました。
数千人の町ですが、吉田署が熱心にやっていて、結果としてほとんど犯罪ゼロに持っていったことも知っていました。

そうしたよい事例を私はたくさん知っていました。
その頃は広島は暴走族がすごかったのです。
平成１５年度の予算を組む時に、各区役所に３０万円ずつ暴走族対策費がつきました。
「広島市から暴走族を無くすためには、とにかく市の仕事としてやらなければならない」ということです。
それは警察だけに任すのではなくて、市には暴走族についての条例も出来ていました。
市の仕事としてもやらなければいけないということでした。
３０万円の予算がついて、区の担当者から私のところに具体的なプランが上がってきました。
担当が「講演とパレードを行う」と言いますので、「バカも休み休みに言いなさい。そんなことをやっても何の意味もない」と言って、「トイレ掃除に取り組め」と言いました。ポカンとしていました。

それでとにかくトイレ掃除を体験しろと4名ほど行かせました。それでトイレ掃除が終ってから、感想発表というのがありますが、その４人は「来年度からは東区役所はトイレ掃除に取り組みますから、よろしく」と私には相談もないまま挨拶をして帰り、「今後、東区役所はトイレ掃除をやると言ってきました」と事後報告がありました。

さて、今日の会場の皆さんの中にトイレ掃除の体験者がおられますか。
体験していない人は、その体験がないと今までの話をよく分からないと思いますし、これから話すこともあまり分からないと思います。
ただ中学生がこういうことを言いました。
中国新聞の記者の取材を受けて「トイレ掃除はどうだった？」と質問されて、「なんぼ口で言っても分からんよ、あんたもやってみれば分かる」と言いました。
中国新聞もさすがで、これがちゃんと記事になっています。
これがトイレ掃除の効果の答えです。

トイレ掃除の効用については、体験した人には快感ホルモンがどんどん出ます。
このことは口でいくら説明しても分かりません。聞いて頭で理解するより体験は１０倍も２０倍も素晴らしいです。これを頭に入れながら聞いてください。

■ 二葉中学校でのトイレ掃除

さて、東区役所にも３０万円の予算がついたということもあって、さきほど話しました今の安西高校のことも吉田署のことも知っていたので、何とかしたいと思っていた時に、東署の少年課の先川係長さんが来られて、県内一荒れている学校が二葉中学校であると言われました。
広島市東区の行政区域は広島駅周辺です。その広島駅近くの学校が荒れていて、一日三度も警察が補導に行くと言われました。
暴れている子供を連れて帰るなどの補導を毎日、何年もやっていると言います。

「もう、これ以上やれん」と言い、警察としてやるべきことは全部やったと言う。
私とは飲み友達でトイレ掃除に数回一緒に行った仲でしたので、「トイレ掃除をやろうと思うが、東署から声をかける訳にはいかないので、区役所の名前を貸してくれ」と言われました。
「いいですよ、名前を貸しましょう。その代わりやるのは全部あなたがたですよ」と言っておきました。
しかし段々と私のほうに振ってこられるようにました。
これが東区でトイレ掃除に取り組むきっかけです。

二葉中学校がターゲットでしたが、初めからそこに行くわけにはいかないので、他のどこかの中学校で練習を一回しようということになりました。
中学校の校長先生の中で時々トイレ掃除に来ている人がいました。戸坂中学というのが東区にあって、そこの校長に頼んだら「是非やってください」と言われるので、そこに頼みました。
ですがトイレ掃除は「宗教活動」だとか「変な活動」だとか言われて、そこの先生たちには全然相手にしてもらえません。出てこられたのは校長と教頭だけでした。
PTAにも連絡しましたが、会長と副会長だけが付き合いで出てこられましたが、あとは全部ボイコットです。生徒が10人くらい出てくれましたが、学校関係者は全部でこれだけでした。

もう私は意地になっていました。私は各種団体の会合に出ますが、どこでも挨拶を3分ぐらい述べます。それでいろんな会合に出るたびにトイレ掃除の話を必ず挨拶の中に入れました。
それでも「宗教活動ではないか」と言われましたので、「宗教活動ではない。何故トイレ掃除をやるのか」を１０分ずつ、いろんな所で話させてもらいました。
それでも出てこないと言いますから、「それなら分かった。だったらあなたたちの会合にも私は出ない。会合は夜なので私も出る義務はない。あなたたちが頼んだ時は私は出るではないか。私が頼んだ時くらいは出てきてくれ」と・・・ もう押し売りですよね。

そうやって、1回目は掃除に学ぶ会と区役所と警察が５０人くらい出ました。残り１５０人くらいがどこから出たかというと、各種団体の会長、副会長などの役員さんなど、東区役所管内全部から出てきてくれました。
「とにかく見てくれ。やらなくてもいいから見てくれ」ということでやりました。
このときは押し売りでしたが、2回日以降は一度も押し売りはしていません。
「とにかく一度だけでも見てくれ」と言ってトイレ掃除をやったら、口コミでいっぺんに広がりました

から、そういう誤解はまったくなくなりました。

その時に二葉中学校からPTA会長さん以下10人来られていました。
会が終った時に、会長さんたちが「二葉中学校でも是非やってくれ」と言われるので、「分かりました。それでは二回日は二葉中学校でやりましょう」と決めました。それが始まるまでの経緯です。

その二葉中の話に戻りますと、まず校長の所に行ったら、本人はやる気だが、職員会議でOKを得る自信がないと言われました。いろんな話をしてもまだあまりのる気になられない。
そこで最後に一緒に行っていた東署の係長さんが、「あなたたちの都合のいい時にだけ、生徒に殴られた時にだけ処置に困り、お巡りさん助けてと呼んでおいて、本格的に取り組みましょうと提案したら『知らん』というのでは困ります」と、そんな風に説得されました。
それで校長は「分かった、職員会議にかけてみましょう」ということになりました。
それで職員会議にかけてもらいましたが、それはもう全然話になりません。先生方は「一切やらない」と言われました。
そこで私は「職員会議で１０分ほど時間をくれないか」と言って、職員会議に出ました。
「何故トイレ掃除をやるべきか」と、とうとうと格調高い話をやりました。しかし先生方はふんぞり返って、足は前に投げ出していました。私は「くそ！」と思いながら話をしました。
それで私の話が終って、PTAの会長さん（４５歳くらいのご婦人)が５分ほど話をさせてくださいと言われました。
私は、私があれだけ話してもダメだから効果はないのではないかと思っていたのですが、会長さんは三つのことを話されました。

ひとつは、「この一年間にいろんなことをやったではないですか。何ひとつうまくいかなかったではないですか。何故東署とか東区役所が手伝おうというのに乗らないのですか」と。
二つ目は、「次の日からテストだから、子供を出さないと言われるが、３０点、５０点の点数なんか上げてもらわなくってもいい。それよりも大人になった時に素晴らしい大人になること、それが教育というものでしょう」と。
三つ目は「自分の学校のトイレ掃除をしてもらう時に、あなたたちはデパートに買物に行ったり、昼寝をしますか。出てきてください」と言われました。

そうすると先ほどまで足を伸ばしてていた先生が、ちゃんと座っていました。
私の格調高い話は何だったのかとも思いましたが(笑い)、最終的にはそれで「やりましょう」ということになって、２０人ほど先生が出てきてくださいました。約半分くらいです。

中学校の状態をいいます。第１回目は３月末にやりました。その頃の学校の状況は、まずトイレの中で授業中にサボってタバコを吸っている、廊下をウロウロと遊んでいる、トイレの中にはガムとかパンの袋とかが散らばっているという様子です。授業中にはPTAが２人でペアになってパトロールしています。ようするに先生が言っても全然言うことを聞きません。
授業中のクラスの中はどうかといいますと、先生は黒板に向かって書いていますが、後では５人くらいが立って遊んでいる。窓枠に座っている子はズボンをずらしています。反対側が公民館な

ので館長さんが「窓枠に座っている子のお尻が見える」などと苦情を言っていました。そういう状況でした。

第1回のトイレ掃除の事前視察で行った時には、大便用トイレの扉が５０％は壊されて使えない。男子用も女子用も含めてです。それに落書きが男女用共にぐちゃぐちゃです。一杯いやらしいことが落書きしてあり、女子用のトイレの中にもた<さんありました。
植え込みの中にはビンや缶がたくさん落ちているし、ヘアーヌードの写真も植え込みの中に落ちている。私は拾いながら行ったのでよく覚えています。
正面のところに池があるのですが、鯉と一緒に七足も靴が泳いでいました。

その前に校長先生の所に行った時にも、中学生に出会っても誰も挨拶しない。頭髪を黄色にしたり、赤にしたり、緑にした子供たちがたくさんいます。廊下は土足厳禁ですが、埃まみれです。

私は知らなかったのですが、先日東署の先川係長さんと二葉中に1年ぶりに行ったら、靴箱に靴がちゃんと入っていると言って涙を浮かべているので「こんな靴箱を見てどうして涙を流すのですか、どうしたのか」と聞いたら、昔はもうぐちゃぐちゃだったそうです。
「靴箱に靴が入っていることは素晴らしい」と感動して涙を流していました。そういう状況もあったらしい。校庭などにはたくさんの吸殻が落ちています。それが二葉中学校の当時の状況です。

第一回目は３５０人集まりました。掃除に学ぶ会が３０人。東署と東区役所がそれくらい。
学校関係者は、先生、PTA、生徒が５０人くらいです。
あとの２５０人ぐらいはどこから来られたのかと言いますと、中学校の近所のおじさん、おばさんに、おじいちゃん、おばあちゃんたちです。これは素晴らしいことです。
全部で３５０人のうち、２５０人は近所の大人が来ました。そうすると子供たちは「何故、この近所のおじさん、おばさんが来るのか。自分らのトイレを掃除するのに」と、それは彼らにショックです。 トイレ掃除の後に教育長に頼んで「いくらトイレ掃除をしても、壊れたところを修理しないと意味がない」、また大便用トイレの扉が閉まらないこと自体が論外ですから、「すぐ直してくれ」と言って、すぐに直してもらいました。それが1回目でした。

6月に第二回目をやりました。大便用トイレの扉がそれでもまだ三分の一が壊されていた。
しかし落書きはなく、ビンも缶もありません。その時も３５０人という同じような数で、やはり近所の大人が２５０人も入ってくれました。

三回目は8月にやりました。夏休み中の全校一斉登校日に、今度は生徒会が「主導権を取らせてくれ」と言いました。もちろん「どうぞ、どうぞ」と言いました。
そうすると生徒が７７０人出てきますし、地域の人が1,０００人出てきて、中学校区全部を掃除しました。その内の１５０人はトイレにまわりました。その他の1,５００人余りは中学校区を３０ぐらいのブロックに分けて、それぞれが全部掃除して歩きまわりました。
中学校区を徹底してきれいに掃除しました。

その時は、学校の大便用トイレの扉が1割ほど壊されていました。もちろんすぐに直しました。
とにかく「トイレ掃除を三回やると学校は変わる」ということをイエローハットの鍵山秀三郎さんからお聞きしていたし、本も読んでいましたので、二葉中学校で三回やりました。

そのことは個人でも同じですよ。三回やると人生が変わります。これはもう私の体験からです。
もちろん一回でも良くなります。だが騙されたと思って三回やってみますと、一回、二回では百点になりませんが、回を重ねて三回もやると、人生が素晴らしいものになります。
学校も三回やってみてください。個人も三回やってみてください。
「三回やると変わる」というのは分かっていたので、「ともかく三回は何が何でもやる」と言いながらやりました。

１０月には運動会をやりました。２９年ぶりの運動会です。
その時はまだ十人ぐらいの生徒がボイコットしていました。サボるようにと生徒を引き抜きに来たり、邪魔しに来ていました。このときは東署と連携を組んでいましたから、私服が１０人くらい入っていました。「いよいよ最後の最後には頼むが、そうでなかったら出てくれるな」と頼んでおきました。
７７０人の生徒に対して大人の観客が千人を超えていました。保護者だけではありません。近所の人やOBの大人がものすごい数でした。中学校の運動会でこのような多くの観客は見たことがありません。観客席は少ししか用意していなかったのであふれていました。
テレビカメラが7台入り、新聞記者などが２０人位来てグランドをウロウロと取材していました。
それがその運動会の状況です。だから暴走族のOBなんかも来ていましたが、邪魔しようと思っても邪魔できる状況ではなく、雰囲気でもありませんでした。もしそういうことをやったら、大人の皆で引きずり出していますよ。それがその日の二葉中学校の状況でした。

トイレ掃除を始める前には、現役の暴走族に生徒が３０人から４０人もいました。
暴走族は中学生と高校生の年齢層で、中学生が一番多いのです。
その構成員の中で一番多かったのが二葉中の生徒でしたが、1年経った時には、二葉中の暴走族はゼロになりました。

卒業式が終った時にPTAの役員から「まともな卒業式ができました」とお礼を言われました。
最初は何のことを言われたのか全然分かりませんでしたが、それまでの卒業式というと、各クラス毎に集まって、このクラスは屋上、このクラスは近所の何々公園、このクラスはどこそこといった具合に全部ばらばらにして卒業証書を渡していたそうです。
クラスでやっても乱入してこられて邪魔されるからできなかった。もちろん講堂などでは論外です。それが講堂で卒業式ができたといって感動して言われました。
そのすぐ後に、入学式が感動的であったと礼に来られました。
「入学式がまともにできました。それまでは講堂でやっていましたが、いつも乱入されてグチャグチャでした」と。

それから3月にもう一度やりました。1年のうちに4回やりました。4回目はもうやらなくってもよい

と言ったのですが、今度は校長がすごく熱心になっていて、4回目も是非やりたいということでした。
4回目に行って良かったのは、3回やるとどんなに結果が出るかということが見えたことです。
例えば4回目に行って確認した時はトイレの扉の破損はゼロです。全部まともです。
業務員さんが常駐されているので聞いてみますと、冗談半分に「今ごろは暇でしようがない」と言われました。
それぐらい素晴らしい学校になっている。3回目が終った時、中学生が正門のところに別に先生から並べと言われたわけではないのに、１０人も２０人も生徒が並んで、「ありがとうございました。ありがとうございました」と、帰る私たちにお礼を言ってくれました。
もちろん4回目の時もそうですが、1年前だったら考えられなかったことです。

■ トイレ掃除の効用は

そうした変化はトイレ掃除だけが要因ではないですよ。
学校の先生方がいろんなことに一生懸命に取り組んでこられて、おそらく８０点位までやっておられたのでしょう。百点になったら片栗が固まるようにガラリと変わるのです。
そういう時に、その上乗せとしてトイレ掃除をやったものですからガラッと変わったんですね。

トイレ掃除には学校を変えるのに３０点か４０点分の効果があります。
だからトイレ掃除をやった上にいろんなことに取り組むと、ガラッと良くなります。
トイレ掃除抜きでやると、いろんなことに取り組んでも、百点まではいかないですね。
トイレ掃除をベースにして、他にもいろいろのことを試みますと、必ず良い結果が見えてきます。

この他にもどういう良い結果があったかを言います。
これは二葉中ではなく他の中学校ですが、3回も補導された子がいます。
これが登下校の時くわえタバコをしながら帰っていました。
この前その中学生に会って「おい、まだタバコを喫いながら登下校しているのか」と聞きますと、「冗談じゃない」と言いました。
朝歩いていたら「おはよう」と言われるので、「おはようございます」と返事をし、もうちょっと歩くと「おはよう」と言われるのでまた返事をします。
近所のおじいさん、おばあさんが次から次から声をかけると言っています。帰りも同じように「お帰り」と言われるから、「ただ今帰りました」と返事をするので、くわえタバコをしている暇がないと言いました(笑い)。
だから学校を一歩出ると、恰好をつけて歩いているのだそうです(笑い)。

いつも近所の大人が１００人から２００人くらいトイレ掃除に入ります。
１回掃除すると「自分の学校」という気持ちになります。車でもなんでもそうです。自分の所有物しか普通は掃除しないわけですから、学校をやると、自分の子や孫がたとえその学校に行っていなくても、「自分の学校、自分の子ども、自分の孫」という気になりますから、中学生が通ると声をかけるようになります。

二葉中学校は広島駅周辺です。街の真ん中です。田舎なら「おはよう」とか「お帰り」という声がけはありますが、街中でそういう現象が起きています。
学校では知識を教えてくれますが、人間性とか社会人としての教育は、やはり地域の大人がやるものなのですね。
地域の皆さんが次世代を作っています。これは学校と地域とが仲良くなったことのひとつの大きな成果です。

次は小学校へトイレ掃除に行った時のことです。
ある家族が子供と両親の4人で来られていました。全部終了した時に、お父さんが私の側にやってこられて、「今日はありがとうございました」と言われるので、「いや、こちらこそありがとうございます」と言いました。
そのお父さんが話されるのに、「この間ディズニーランドに4人で行きました。それも楽しい思い出ですが、今日の4人でのトイレ掃除は素晴しかったです。この子たちが今から苦しいことや、つらいことが大人になるまでに起きるでしょう。このトイレ掃除の体験があったから、子供たちはたくましく生きていけるということが、私には確信できました。今日はいい取り組みをさせてもらいました」と大変な礼を言ってくださいました。
本当に私はすごく嬉しかったです。
そんな大きなことまで考えてしたことではなかったので大変嬉しかったです。

それから東区の小学校の校長の数人が、「今までは地域の老人会なんかには声をかけても手伝ってもらえないし、こちらから声もかけなかった。声をかけても、『何故学校に行かなくてはいけないのか』と言われていたが、この間は『昔の遊び』というのを小学生がやるので、老人会から20人くらい手伝いに来てくれませんかと頼んだら、50人ぐらい来てくれました」と言っていました。
さらに老人会の人たちが、「もし花壇なんかを造作するのだったら、何時でも言ってくれ。何十人でも連れて来るから」と言ってくださったと報告がありました。
ようするに、学校と地域がものすごく仲良くなったのですね。
「トイレ掃除で学校に入ってもらったお陰です。今までは非常にギスギスしていて仲が良くなかったのですが、こうなったことも素晴らしいことです」と校長先生からお礼を言われました。

ですからトイレ掃除をやると、まず当初のねらい通り個人が良くなります。
来た本人が良くなります。
掃除に学ぶ会の人はトイレをきれいにするのが主たる目的ではなくて、自分を磨くこと、自分の修行としてトイレを貸してもらって、滝にうたれて修行することと同じように、自分を成長させようというのが大きな目的です。
それがいつの間にか行った先、行った先が良くなるから学校をメインにやるようになりました。

■ トイレ掃除は地域を変えた

まず個人が良くなって、その家庭が良くなります。それから学校が良くなる。

ここまでは私も考えていました。だから学校を良くしたいから取り組みました。
私のいる東区にある全部の中学校、小学校を廻ってもらいました。そうすると東区全体が良くなりました。学校が良くなるだけでなく、東区全部が良くなりました。

この東区には5万世帯、１２万人の人がいます。それが1年間で劇的に変わりました。
なぜ変わったかといえば、各種団体役員がトイレ掃除に1回以上は来ておられる。
今までもいろいろな活動をされていますがきれい事だけです。
男の人は特に現役の時にもエリートだし、町内会長をやったら目先ばかりで自分では行動しないというタイプが多い。
だがトイレ掃除に来たら、私もその他大勢の中の一員としてやるわけですから、今度は口だけでなく行動が先になりますよね。そうすると各種団体の諸活動が本音で動き出しました。
それが東区全体の動きになりました。
全国あちこちに「思いやりのある、やさしい街」という標語がありますが、これはそうでないからそういう標語を作っているのであって(笑い)、東区はそういう標語通りの街になりました。

こういうことは全然予想していませんでした。
私のねらいは二葉中が県内での評価が最下位だから、下から二、三番目になったら満点だという思いで取り組みはじめたのです。
しかも去年の１１月２４日に県知事表彰されました。美化活動が評価されてのことです。
1年半前には最下位だったのが、県内で一番になりました。
きっかけは地域の町内会長さんが私に「二葉中をほめてやってください」と言ったことにあります。
「それはいいですよ。しかしそれはまた何故ですか」と聞いたら、「生徒たちが学校の中の掃除だけではなく、最近は学校の外もやりだした」とのこと。「学校の外の道路の反対側をやりだし、うちの町内会の中まできれいにしてくれるのです」と言われました。
「私がいろいろお礼を言うのだが、それより区長が言った方が効果があるから」と言われました。
口でお礼を言っても仕方ないから、表彰状を出しますと区長名で出しました。
それを今度は広島県に、「こういうことに中学生が取り組んでいるのだ」と報告したものですから「県内でこういう素晴らしい活動をしている」と県知事表彰を受けました。

１年半で最下位からトップに上がりました。学校を良くしたいと狙ったことは百点満点です。
「地域が良くなる」とは考えていなかったから、これで百点満点の２００点になったわけです。
トイレ掃除は街づくりに役立つことが分かりました。それだけではなく、今市の職員が不祥事で次々と逮捕されていますが、「東区はそんなことはない。トイレ掃除に取り組んでいる東区の職員はそうした不祥事は起こさない」と信頼されています。
もともと地域の区民と区役所には対立のようなものがありました。私が区長になった3年前には、５０％ほめられて５０％叱られていました。2年前は８０％ほめられて、２０％叱られていた。
今年度は１００％ほめられて、叱られるのはゼロです。

変な苦情があっても、地域の各種団体の役員の人が「そんなことはない」と区役所の味方です。

苦情がひとつ来ると、(人手を取るので)十人役か二十人役かが無駄になります。それがゼロですから、本来の仕事をやっておれば良いだけであって、ますますいい方向に動きます。
一番儲けたのは東区役所であるし、そのトップである区長であると思っています。
百点満点で、実際のところ３００点ぐらい取っています。

■ 「割れた窓」理論と「百匹目の猿」現象

ではそのような効果、結果に対して、最初から自信があったかというと、そうではありませんでした。何をどうやって真似をしたかというと、「割れた窓理論」を使いました。
ニューヨーク市で犯罪を減らすために取り組んだ方法です。
自動車を二台置いておいて、片一方はガラスを割ってヒビを入れたままにしておく。もう一方はきれいなままで一週間放置しておく。するとヒビが入った方の車からは、ハゲタカがきたように全部盗っていかれますが、きれいな方は何ともない。
こういう理論に基づいて、ニューヨーク市は落書きを徹底的に消して、掃除もやって小さな犯罪を徹底的に警察が取り締まりました。
そうしたら殺人事件が三分の一ぐらいになって、それに次ぐ重大犯罪まで減りました。

もうひとつは「百匹目のサル現象」ですが、宮崎県の幸島でサルが海でサツマイモを洗って食べはじめた。
(それをまねるサルが)一定数になると、例えば全体の一割なら一割になると、全島の猿がやりだす。その時に幸島という島だけでなく、高崎山のサルも、東北の山のサルも、アフリカの方のサルも一斉に洗いだしました。
こういう現象がこの地球にはあるわけです。
これは別にサルだけではなくて人間もそうです。飛行機を発明した時も、世界中のあらこちで同時に発明された。電話もそうです。そのように、一定数になるとダーッと世界に広がる。

この二つの理論を知っていました。
東区は１２万人ですから、１２万人を相手では大変なので「１％がトイレ掃除に来てくれれば何とかなるぞ」と私は勝手に思い込んで、1,２００人をターゲットに「1,２００人にはとにかく体験してもらいたい」と思って取り組んだのです。

■ 「大きな努力で小さな成果を」

トイレをきれいにすれば学校がよくなることは、いろんな事例を通して知っていたものですから、一生懸命に取り組みました。
それでも最初のうちはあまりうまくいきませんでした。
そんな時に鍵山秀三郎先生とお会いし、愚痴をこぼしたことがあります。
「いくらやってもうまくいかない」と言いました。
そうすると鍵山先生に「大きな努力で小さな成果を」と言っていただきました。
「何をこの人は言っておられるのか。ちょっと間違っているのではないかな」と思いました。

「小さな努力で大きな成果」というのは分かっていましたが、「大きな努力で小さな成果を」と言われ、「その差が徳になりますよ」と言われました。
「ああそうか」と、とても気分が楽になりました。
もうひとつは、「いっぺんに大きく花が咲いたらすぐ散りますよ。小さいものから少しずつ大きくしていく方が良いですよ」と言っていただいたので、気持ちを楽にして続けることができました。

■ トイレには神様が住んでいる

それでは「これでどんどん続くかどうか」ということですが、皆さんからも「不安はないのか」と質問されます。私はそんなことは心配していません。
トイレには神様がいます。女性は妊娠すると自分の家のトイレをよく掃除しますよね。
「トイレには神様がいるのでよい子が生まれる」と昔から言われています。
けれどもトイレには神様がいるからうまくいくかいかないかは、私が心配することではなくて、トイレの神様が心配される事柄です。だから時々神さんに向かって言います。
「トイレの神様しっかりしなさいよ。うまくいかなかったらお前さんの責任だからね」と神様を脅して会場に行きます。
今まで全部うまくいっています。神様のパワーはすごいです(笑い)。

■ トイレ掃除を長く続ける法

さて、なぜ続いているかということですが、楽しいからです。
広島の井辻快調(会長)はすごく明るい人です。
いっぱい駄洒落を言って、トイレ掃除は厳しい修行の場ではなくて、楽しい社交の場のようになっています。やはり多くの人に来てもらっていますので楽しさも必要です。
「広島掃除に学ぶ会」の皆さんがひどく明るく楽しいので、終わった瞬間に快感ホルモンがどっと出て、華やかなパーティーのような気になります。
それは何故かと言いますと、さきに言ったように人生の生きる目的というのは二つあります。
ひとつは人間性、人格を高める。もうひとつは、その能力を世のため人のために使う。
そうしたことをした人には快感ホルモンが出るようになっています。
そのことをトイレ掃除の二時間の間に体験できます。
だから理論的に分かっていようがいまいが、快感ホルモンがドッと出るようになっています。
それだから皆さんが終わった瞬間にすごい感動を受けられます。

もうひとつは、トイレ掃除をやったって誰もほめてくれませんが、世の中で善いことをしてもほめてもらわない方がよいです。ほめてもらったらそこでチャラ(相殺)ですから。
「陰徳を積む」とか「天の蔵に貯金する」という言葉がありますが、「善いことをしてほめてもらわない」、そうすると天の蔵に貯金が出来たということです。ほめてもらえなくってもよいです。

世の中というものは、二人だけは必ず見ている人がいます。
その一人は自分、もう一人は神様。仏様でもいいですが、この二人が見ています。
この二人に理解してもらえれば、あとの人、世間には何も理解してもらえなくってもいいのです。

自分と神様にほめてもらえることをしていたら、自信ができます。
人からほめてもらって自信ができるのではありません。
自分を自分でほめて、「あなた(自分のこと)の今日の行動は素晴しい」と言ったら自信になります。

トイレ掃除を終えて帰る時に、なぜそれだけ爽やかなのかというと、「そういうあなたが素晴しい。自分が素晴しい」と、自分をほめられるからです。
みなさんも是非トイレ掃除を自分で体験してみてください。

■ 「変人」が世の中を変える

ところで、トイレ掃除をしている人はどちらかといえば変人です。
今日この会場にこられた皆さんも変人です。
「変人だ」と言われたら喜ばれたらいいですよ。世の中を変えるのは変人です。
例えば最初に飛行機で空を飛びたいと考えたライト兄弟は変人ですよね。
一般人は空は鳥が飛ぶもので、人間が飛ぶものではないと考えていました。
しかし彼らが飛んだから、今飛行機が飛んでいるわけです。
電話もそうです。顔も見ないで電線を使って相手と話をすると考えるのは、大変な変人扱いですよね。電気もそうだし、電波もそうです。ようするに、次の時代に行くために、変人が必ず現状を変えていきます。
だから変人と言われたら、自分に自信を持ったらいいのです。

常識人で「人間ができている」と言われたら、それは凡人ですよ。
江戸時代のように三百年も同じことが続いている時はそれでいいですが、やはり世の中を良い方向に変えていくんだったら、変人であることを喜んでいいのです。

もうひとつお話ししたいことは、いろいろと非難・中傷を受けることもありますが、それを喜んだらいいということです。
日本で一番非難・中傷を受けている人は誰でしょうか。小泉首相ですね。
一番非難・中傷を受けない人は誰でしょうか。まあホームレスのおじさんですよね。
世の中で影響力のある人ほど非難・中傷を受けます。
だから非難・中傷を受けるようになったということは、「自分の働きはいい」ということです。
だから自信を持って非難・中傷を受けてください。

講演会も来なくっていい人が来られて、講演を聞いてもらいたい人は来ていないですよね。
今頃はデパートの方に行って遊んでおられます。
トイレ掃除をやってもよく言われます。「来なければいけない人は親も来ない。子供も来ない。いい人ばかり来ている」と言われます。
その人に答えています。「それでいいんです」。

人類は数百万年続いてきています。出来の悪い人が人類を引張ってきたのではない。
出来のいい一部のリーダーとか悟った人が引っ張ってきた。
その他大勢はそれを見ながら真似して生きてきているだけであります。
皆さんが引っ張っていけば、その他大勢は見ていて真似してきます。悪い人を直す必要はない。
いい人をますます良くすれば、世の中良くなります。

だからいい人が自分をどんどん高めていってもらうと、世の中のレベルはそれによって上がっていきます。

■ トイレ掃除で「ウン」がつく

トイレ掃除の会場で、小・中学生には「ウンチがつくとウン(運)が良くなりますよ」と言っています。これは事実であります。聖書にも書いてありますが、「良い考え」があって、それを「行動」に移して、それが「習慣」になり、その人がそういう「性格」になっていくと、そのあと「運」が良くなります。

イチロー選手が「運」が良いといわれます。広島駅の近くのパチンコ屋から出てきたアンちゃんが、「わしとイチローは同じ年なのだが、あいつは年収１０億円、わしは３００万円」と言って、「あいつは運がいいよなあ」と言っていましたが、「違う、違う。運がいいのではない」と私は言いました。
イチローは子供の頃に「野球選手になりたい」と、「良い考え」を持ったわけです。
それでバッティング・センターに行ってすぐに練習しはじめました。
つまり「良い考え」があって、それを「行動」に移しました。そしてそれを毎日、毎日の「習慣」にしました。それでそういう「性格」になり、そういう「人間」になり、そして今のイチローがあります。
パチンコ屋から出てきたアンちゃんは、恐らくイチローがバッティング・センターでバットを振っていた時に遊んでいた。グランドを走っている時に女を追い掛け回していた。
３０年間のビデオを早廻ししてみると分かりますが、なるようになっているだけです。
当たり前のことを当たり前にやったら、当たり前になります。
良いことを一生懸命にやったら、運は良くなります。
悪いことを一生懸命やっても、悪くなりますがね。それが世の中のルールです。

トイレ掃除に参加したら、自信が持てるようになります。特に冬の寒い時のトイレ掃除です。
トイレ掃除は全部素手でやります。こんなつらい仕事は世の中に出てからないです。
世の中で一番つらい仕事を探せといったら、この学ぶ会のトイレ掃除ですよね。
これをやると、その他のことは何でもできる。後は何も大したことはない。だから自信ができます。
一番つらいことをやった後の小学生、中学生に「自信もって生きてください」と言い切れます。

■ 本当のボランティアとは

私たちは本当をいうとボランティアをやっているのではなく、ボランティアをやったような気持ちにさせてもらっているだけです。
というのは、 トイレ掃除をやる時、私たちは例えば午前8時にはじめますが、本当のボランティアはその日の午前4時とか5時にはもう準備をはじめておられます。
私などはトイレ掃除に取り掛かって１１時、１２時には終わりますが、後始末はその日の午後5時ごろまでかかります。

東区役所も２００人分の掃除用具を用意しています。やる時には前日から用意に取り掛かり、掃

除が終わるとその日のうちに用具などの後始末をします。雑巾はその日のうちに洗濯し乾燥させて、きちんと納めておかないと臭くなりますから、消毒して納めます。夕方までかかります。
このことは一般の参加者には見えないところです。これが本当のボランティアです。
一般のボランティアをさせてもらっても、もちろん人生は良くなりますが、本当のボランティアは準備･後始末です。この点もよく見ておかないといけません。
目に見えないところまで、やはりしっかり心の目で観るということは大切なことです。

この間、 トイレ掃除だけのお陰かどうかは別にしても、こういうことがありました。
東区の区民まつりが11月にありました。区役所の中の駐車場全体を使ってやりました。
朝から午後3時ぐらいまで5万人の人たちが来られました。3時に終って全部しまいます。
私はそこに立って見ながら、あとで掃除をどうやってやるのかなと思っていました。
そのままにしておいたら、次の日に掃除の人が大変なので、職員に散らかったゴミを全部掃除させないといけないな、と考えていました。
しかし会場から用具類を全部撤去した時に、ゴミはひとつも落ちていませんでした。
本当に素晴しいですね。東区民のレベルがとても高いことが分かりますよね。
別に誰一人として、ゴミを拾えとか、きれいにしてくださいとか、仕切っている人はいませんでした。全部を勝手にやってもらって、勝手に片付けてもらったら、ゴミがひとつも落ちていないという素晴しい結果でした。

■ 幸せになる法

それでは講演の時間が迫ってきたので最後にもうひとつ、幸せになる方法を紹介します。
日本の団体客がインドの偉いお坊さんの所に法話を聞きに行きました。
そうするとそのインドの偉いお坊さんが「なぜこのインドの山奥まで、あなた達はわざわざ来たのか」と質問されました。
日本の団体旅行客は「私たちは、感動を求めてヨーロッパも行った。アメリカにも、南極までも行つた。このインドの山奥まで、感動を求めて法話を聞きに来ました」と言いました。
するとインドの偉い坊さんは答えました。「日本人の方々よ、感動を求めて世界中をさまようのではなく、感動を与える人になりなさい」と諭されました。

同じような話ですが、ある国の王様が、国民を幸せにしたいがどうしたらよいか、学者を百人集めて命令するわけです。そして1年かけて百冊の本にまとめて報告しました。
ところがその王様は「百冊は読めないので一冊にしてくれ」と言うので、1年かかってまた一冊にしました。その一冊も読むのが大儀なので、「一行にしてくれないか」と命じました。
そこでまた1年かかって一行にしました。
その一行は、「他人を幸せにすれば、あなたが最も幸せになれる」というものでした。

今こうしてトイレ掃除に取り組んでおられる方は、全部自分のためではなくて、世のため人のためにこうしてやっておられます。
しかし一番本当に恵まれるのは、やっている本人であります。
是非とも皆さんも一度体験してみてください。

■ 頑張らないで「顔晴り」ましょう

最後に皆さんに、「頑張らないでください、そして顔晴ってください」と言っておきます。
「頑張る」というのは「頑固」の「頑」、それに「意地を張る」の「張」と書いて「我を張る」という意味です。これはもう、これまで皆さんがいっぱいやってこられました。それは少し休憩してください。
私が言う「がんばる」は、「顔面」の「顔」と、天気が「晴れる」と書いて、それで「顔晴る」です。
皆さん、笑顔で顔晴りましょう！

今日はこういう機会を与えてくださって、本当にありがとうございました (拍手)。

(了)

この講述録は、平成17年1月29日に「岩国掃除に学ぶ会」が主催した山口富久広島東区長のご講話を、主催者の方がテープ起こししたものを再編集しました。
文中の写真は、それぞれの文章と直接関係するものではありません。

ヨガナンダ　http://yogananda.cc
(ホームページに印刷用PDFファイルをアップしています)